

山梨県内におけるジュエリー産業の歩みと課題

(甲府財務事務所 財務課)

※1 本資料における「ジュエリー産業」とは、日本標準産業分類における、「貴金属・宝石製装身具(ジュエリー) 製品製造業」のことをいう。
 ※2 図1、図4における事業所は、従業者4人以上の事業所のことをいう。
 ※3 図2のジュエリー出荷額は千円以下切り捨て。なお、端数処理の関係から合計の金額は一致しない。

株式会社 石友による従業員確保のための取組み

【①山梨県ジュエリー産業の歴史】

山梨県のジュエリー産業は、金峰山を中心に産出する水晶の加工を主とした「研磨宝飾業」の勃興をきっかけに発展を遂げていった。高度経済成長期には貴金属加工を始めとした高級宝飾品の引き合いも強まり、バブル期には花形商品として高い人気を集め山梨のジュエリー産業も拡大、発展した。現在でも多数の事業所が県内に所在しており、県内オリジナルブランドを持つなど、ジュエリー産業は山梨県を代表する地場産業として地位を確立している。

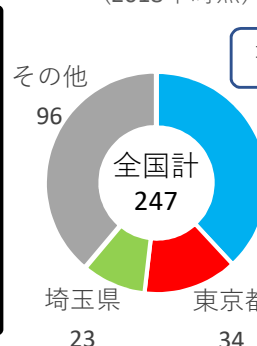


【山梨県オリジナルブランドであるKoo-fu (クーフー)】

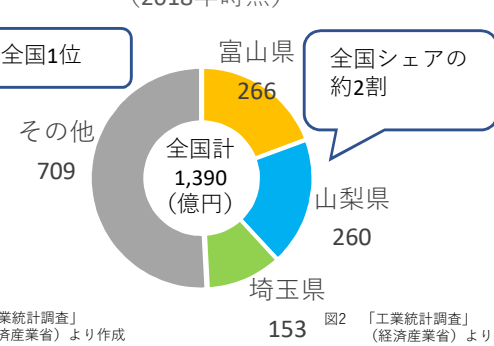
【②現況】

バブル崩壊後、ジュエリー産業の市場規模は縮小傾向にあるものの、現在においても、山梨県は国内最大級のジュエリーの生産地となっている(図1、図2)。企業からは「今般の新型コロナウイルス感染症の拡大によって、当社製品の卸先である百貨店等の動きは依然芳しくなく、業界全体で苦しい状況にある」といった声が聞かれた。

ジュエリー事業所数 (2018年時点)

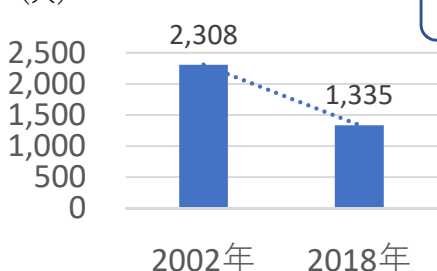


ジュエリー出荷額 (2018年時点)



【③産業が抱える諸問題について】

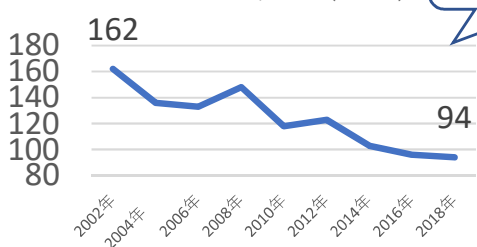
(人) 従業員の推移 (県内)



2002年→2018年で約1,000人減

図3 「工業統計調査」(経済産業省)より作成

事業所数推移 (県内)



2002年→2018年で約4割減

図4 「工業統計調査」(経済産業省)より作成

ジュエリー産業は、足下の業況悪化もさることながら、当産業を担う人材は長期的に減少傾向にある(図3)。

また、県内における事業所数も減少傾向にあり(図4)、県内地場産業を担う人材の確保は急務であると思料される。

なお、甲府市内には全国唯一の公立ジュエリー専門学校である「山梨県立宝石美術専門学校」があるところだが、ジュエリー産業関係者によると「当校の卒業生は首都圏で働き口を探すようだ。」と語り、県内のジュエリー関連企業においては、従業員が働きたいと思うような職場環境作りが急務であることがうかがえる。

【④株式会社 石友について】

【所在地】 甲府市川田町アリア106
 【資本金】 5,000万円
 【従業員数】 72名

『企業概要』
 OEM製造を主軸としたジュエリー製品製造業。県内でも数少ない商品企画、デザイン、制作、出荷等を社内で行う一貫生産システムを採用している。

【石友の取組み】

従業員の多能工化

従業員が休職することで空きが生じたポストについては、派遣等に頼らず社内の従業員で円滑に補うことができるよう、従業員の多能工化を実施している。

育児短時間勤務制度の引き上げ

育児短時間勤務制度の取得可能期間を、小学校就学の始期まで引き上げた。

【株式会社石友の外観】



【安定した雇用の実現】

○離職率の低下
 ○退職した従業員の復職
 ★令和3年1月に「子育て応援優良事業者」として甲府市から表彰

従業員の男女構成比 (全国・2015年時点)



製造業に比べて女性の就業比率が高い

図5 「経済センサス」(経済産業省)より作成

③で述べたように、業界全体で人員が不足傾向にあるジュエリー産業においては従業員の確保及び定着が喫緊の課題となっていた。そこで株式会社石友は、社長自らが「家族との時間を大事にすることが仕事の向上につながる」ことを発信し、またジュエリー産業が構造的に女性の就業比率が高いことに目を付け(図5)、従業員確保のために①従業員の多能工化、②育児短時間勤務制度の引き上げを実施。同社の従業員(72人)のうち7割程度を占める女性従業員の離職率の低下や退職した従業員の復職につながっている。